



南の光明

The Catholic Diocese of Naha Newsletter

今年の教区の目標

ゆいまーるの心で
あらゆる絆を深めよう！

〒902-0067 那覇市安里3-7-2

カトリック那覇教区本部

TEL.098-863-2020 FAX.098-863-8474

発行人 W.F.バートン司教 1部40円

<http://www.naha.catholic.jp/>

(1) 2021年3月1日 (毎月1日発行)

カトリック那覇教区報 MINAMI NO KŌMYŌ

第748号 (3月号)

「親愛なる兄弟姉妹の皆さん
イエスは、御父のみ旨をな
し遂げるためのご自分の受難、
死、復活を弟子たちに告げる
ことで、その使命の深い意味
を明らかにし、この世を救う
ために協力するよう呼びかけ
ておられます。
復活祭へと向かう四旬節の
道を歩みながら、わたしたち
は『へりくだって、死に至るま
で、それも十字架の死に至る
まで従順』(フィリピニ・8)
であったかたを思い起こしま

四旬節
二月十七日の「灰の水曜日」
を皮切りに、今年も四旬節が
巡ってきました。
四旬節に当り、教皇フラン
シスコは「今、わたしたちはエ
ルサレムへ上っていく……」
(マタイ二十・18) 四旬節――
信仰、希望、愛を新たにす
る時とのメッセージを発表。



そして、「親愛なる兄弟姉妹
の皆さん、人生のあらゆる場
面が、信じ、希望し、愛する
時です。回心し、祈り、財貨
を分かち合う道として、四旬

節を過ごすよう求めるこの呼
びかけは、今も生きておられ
るキリストからもたらされる
信仰と、聖霊の息吹によって
駆り立てられる希望、そして
御父のいつくしみ深い心をそ
の尽きることのない泉とする
愛を、共同体および個人とし
てのわたしたちの記憶に呼び
起こす助けとなるでしょう。
十字架の下でも教会の中心
でも忠実なかた、救い主の母
マリアが、思いやりにあふれ

断食、祈り、施しは、イエ
スが説教の中で示しておられ
るように(マタイ六・1―18参
照)、わたしたちの回心の条件
であり表れです。清貧と放棄
の道(断食)、傷ついた人に対
する愛に満ちたまなざしと行
為(施し)、そして御父との親
子の対話(祈り)によって、忠
実な信仰、生き生きとした希
望、活発な愛を具体的なかた
ちで表せるようになるのです」
と呼びかけておられます。



「善きサマリア人」 フランチェスコ・バッサーノ

る姿で、わたしたちを支えて
くださいますように。
また、復活した主の恵みが、
復活の光に向かって歩むわた
したちとともにありますよう
に」と結んでおられます。

四旬節の時をふさわしく過
ごし、主キリストの栄えある
復活を喜びのうちに迎えるこ
とができるよう、日々の歩み
を進めて参りましょう。



泡瀬教会 / 原 功・信子ご夫妻



那覇教区の日
2021.2.11



コザ教会 / 金城 昇・愛子ご夫妻 / 松堂 彰・康子ご夫妻

司祭叙階50周年・修道誓願50周年・結婚50周年

金 祝 おめでとうございます！

コロナ禍のため、各小教区で分散開催して祝った教区の日。メイン会場の安里教会においては、ウェイン司教主式のもとミサが捧げられ、カプチン会のパトリック・サリバン神父の司祭叙階 50 周年の金祝と、ドミニコ宣教修道女会の寺田陽子シスターの誓願 50 周年の金祝、また安里教会信徒の安和さんご夫妻が金婚式の祝福をいただいた。その他に、今年丑年の干支を迎える方々にも司教からお祝いの祝福が与えられた。例年のように、各小教区から 1 つの場所に集うことは適わなかったものの、小禄、コザ、泡瀬、石垣の各小教区でも、金婚式のお祝いの対象となった方々に、主任司祭を通して特別な祝福が与えられた。来年はコロナも収束し、また 1 つの大きな輪になって集えることを祈念したい。祝賀ミサの最後にパトリック神父が挨拶に立ち、次のようにエピソードを分かち合ってくださった。「約 55 年前、私の長兄がアメリカ海軍の兵士として太平洋艦隊に勤務していた時、彼の婚約者は白い絹の布地を探してくれるよう長兄に依頼し、彼女はその布地で自分のウェディングドレスを縫いました。それから 5 年後、私が司祭叙階のお恵みをいただくことになった時、兄嫁はそのウェディングドレスをリメイクして私のために白の祭服(カズラ)を縫ってくれたのです。今日私が来ている祭服がそれです。その後私は中米を皮切りに 8ヶ国での宣教活動に従事し、2度の戦争や地震、台風や洪水などの災害も経験してきましたが、この祭服は今も私と共にあります。叙階 50 周年の記念を那覇教区で迎え、この祭服を着て共同司式できたことを心より感謝します」。



小禄教会 / 名富忠夫・かほるご夫妻



ドミニコ宣教修道女会 / Sr. 寺田陽子



安里教会 / 安和朝友・利子ご夫妻



石垣教会 / 玉城功一・文子ご夫妻

2021 Naha Diocese Foundation Day Celebration!



Concelebrated Mass at Asato Catholic Church



50th Anniversary to Religious Life of Sr. Terada, O.P.

Thanking God for a Wonderful 50 years. . .

Fr. Patrick Sullivan, O.F.M. Cap.



About 55 years ago my oldest brother was serving in the U.S. Navy in the Pacific. His bride-to-be wrote him from America asking him to please try to buy some good white silk that she could use to make her wedding dress, and he did.

Later, 50 years ago, when I was to be ordained a priest she decided to ask God's continued blessing on their marriage by cutting up that dress and using the silk to make me a chasuble to wear at Mass. That vestment has been with me through eight countries, two wars, and many typhoons, floods and earthquakes, and I recently had the pleasure of wearing it at our "Diocese

Day" Mass at Asato Catholic Church to celebrate my 50th priesthood Jubilee this year (Sept. 11), along with Sr. Presentation's 50th Religious Jubilee and Mr. & Mrs. Awa's 50th wedding Jubilee. God loves us so much that He not only inspires us to do good things, but also daily grants us the grace to persevere. Thanks be to God!



50th Anniversary to Priestly Life of Fr. Patrick, O.F.M. Cap.

Parishes with Couples Celebrating their 50th Wedding Anniversary





ち か ご ろ 考 え た こ と

古川 政孝 神父

開南教会 主任司祭



万別です。十人十色です。木の幹だけを見て森や林に気付かないこともあります。あるいは蟻さんの目で、時には獲物を狙うタカの目で、そして、またある時は渡り鳥たちのような目で地球や人間を見てみるとおもしろいでしょう。島々を訪れてみて、また、生活してみても、見えてくるものがたくさんあります。

レキオス、うるま、海邦の国と呼ばれる沖縄は、周りの諸国と交友関係を保ちながら生き抜いてきたのでしょうか。世界のウチナーンチュ大会に集う人々のように、移民となっても、そのアイデンティティ、祖国を想う心はだれにもあるでしょう。トロピカルの島々の人々は、太陽のような輝きと明るさをもつ人々です。そして、その輝きこそあの「奇跡の「マイル」」の原動力だったと思うのです。

ものの見方、考え方は千差

高校生のころ、初めてコシキ島に船で渡った時に、隠れキリシタンのことを知りました。司祭になつて、奄美大島に派遣された時、島尾文学に出会い「琉球弧」「ポリネシア」論を知ることができました。強いものが弱いものを支配してゆく植民地化政策等、弱肉強食の論理は、世界のどの民族にもありました。インカ帝国など高度な文明も、先住

民と呼ばれていた人々ほど、侵略者によって収奪され、抑圧され、搾取され、差別、軽蔑されていく人間たちの歴史。

おじいやおばあたちに、沖縄の歩んできた歴史をおたずねしますと、中国ゆー（世時代）、王国ゆー（琉球王朝）、いくさゆー、大和ゆー、アメリカゆー、日本ゆーがあつたそうです。

一口では言い表せない様々な世の中を経て、歴史の大波にほんろうされながらも、今があるのです。特に先の大戦で沖縄は、日本本土の盾とされ地上戦を強要されました。空（空襲）からも海（艦砲射撃）からもたくさんの爆弾が落とされました。現在でも、不発弾が見つかる、処理のために交通や生活がストップします。不発弾で亡くなられた人びとも多いと聞きました。本島には弾丸だけではなく、まだ収集されてない遺骨もたくさん埋まっています。沖縄には、たくさんウタキ、拝所がありますが、島全体が聖地でもあるのです。

教会から歩いて七、八分もすると、農連市場や牧志市場につきます。沖縄県民の、那覇市民の台所であり、私の胃袋

を満たす場所でもあります。

フランスの有名な巡礼地「ルルド」の近くを流れている「ガブ川」とおなじ名前の川が流れています。那覇市民会館、与儀公園を通り、国際通りを地下で横切つて、久茂地川に合流する川を「ガブ川」と呼んでいます。

大平通り、平和通りとアーチを通り抜けてゆくと、国際通りの出ます。戦後沖縄の復興のシンボルとして、この通りは「奇跡の「マイル」」と呼ばれてきました。県庁舎や久茂地のビル街、また、奥武山公園から壺川駅方面を眺めますと、大きなビルや建物にちから強さを感じます。

私は、沖縄での生活が、今年で二十二年を迎えます。奄美でもそうでしたが、たくさんの人びとに支えられ、助けられて今日まで過ごしてくることができました。本当に感謝の日々です。

世界中がパンデミックのなか、沖縄でも非常事態宣言が発令されています。ヤーグマ（家ごもり）を強いられる毎日で。窒息しそうな閉塞感を打ち破るようなシマンチュ（島の人々）の無限の可能性を感じながら、これからの沖縄を見つめてみたいと

思います。

開南教会は今年で七十二年目を迎えます。

戦後、アメリカから琉球ミッシヨンとしてたくさん宣教師が奄美、沖縄に派遣されてきました。教会堂を建てるのではなく、診療所やララ物資のための倉庫からミッシヨンのため始められたのでした。早い時期に婦人たちのための授産施設として、ミシン部とランドリー部が設立されました。当時を知る婦人たちは「裁縫やランドリーの技術を学ぶことができて、とても助かりました」と話してくださいます。生きていくための、大きな希望だったのでしょうか。

来年、沖縄は本土復帰五十年を迎えます。沖縄にとつて、本土に復帰してよかったのか、悪かったのかよく分かりません。これからの沖縄を描こうとしたらどうしても「基地」の問題は避けられないでしょう。全国の七十パーセント以上を占める米軍基地。望まない戦いを強いられ、それでもまた、新たな基地が作られようとしている沖縄。子や孫の世代にはどんな沖縄が伝えられていくのか、私なりに見守つてゆきたいです。

中学生のとき、国語の教科書に国木田独歩の「忘れえぬ人々」という物語がありました。無名の文筆家である主人公が、旅で出会った忘れられない人々を描いていく内容であつたと記憶しています。

人は誰にでもどうしても忘れられない人々がいます。私にとつて数ある中で真つ先に挙げたい人は二〇一九年一〇月五日聖母の土曜日に天に召された上間敬子さんです。実は、私

たちはその一年ほど前、彼女のカジマヤーの祝に招かれまして。その時の様子を認めてありましたのでここに記して彼女に捧げたいと思います。以下文中、Uさんとは上間敬子さんです。

【カジマヤー祝い

今日のほこらしや

なおにぎやなたてる

つぼでをる花の 露きやたこと

沖縄には、十二年毎に生まれた干支の年を祝う風習があります。この祝いをトウシビーと呼びます。数え年十三歳ではじめてのトウシビー(ジユウサンユーエー)を祝い、以後十二年毎に祝います。特に十二年毎の七回目の数え九十七歳をカジマヤーとして旧暦の九月七日に特別に祝います。一説によると数え九十七歳で風車(カジマヤー)を持ち童心にかえると年齢がリセットさ

れ更に、寿命がのびるようなとの願いが込められているようです。長寿を願う先輩方を敬う沖縄の風習を象徴するお祝いと言われています。

コザ教会女性の会と壮年会は十月十四日のミサの後、総勢二十数名でUさん宅を訪れ、Uさんのカジマヤーのトウシビーを祝いました。Uさんは、かつてお元気な頃には毎朝ミサに与つておられ、教会のためいろいろ奉仕な

たて軸よこ軸

亡き先輩に捧ぐ

コザ教会 金城 愛子

さつた方です。今でもコザ教会のお母さんとしてみんなに慕われています。

当教会のルルドの庭で木曜日に口ザリオの祈りをする信心会があります。この信心会の沖縄地区活動のきつかけを作った方が彼女であると聞いております。この功績を忘れてはいけないと思います。「いつかはUさんのように毎朝ミサに与れるように」と私たちの目標や憧れでもあります。手先が器用で教会バザーに数多くの作品を出品されていたことを思い出します。現在是在

宅介護を受けておられます。

さて、Uさん宅に到着すると彼女の部屋に集まり一人ひとり「カジマヤーおめでとう」と声掛けをしました。カジマヤー祝いの装いをした彼女を囲み、神父様の祝福のあとみんな「あめのきさき」を歌い、ロザリオを一連はUさんのため、二連はご家族のための意向で祈りました。次いで「主にまかせよ」「花ヌカジマヤー」「主に愛されて」、そ

して、もう秋ですよと声をかけて「里の秋」を歌いました。

「主に愛されて」と歌いだすと、Uさんは閉じていた目をうすく開け、一緒に口ずさんでいるように見受けられました。

ご家族によるとご自身の歩んできた道と重なるのかとても好きでいつも歌って聞かせているとのことでした。

次に、会食のあと、女性の会会長とヨアキム神父様、Uさんの娘さんの三人による冒頭の沖縄本島などの祝いはかかせない「かぎやで風」を踊り喜びを分かち合いました。そのあと、シスター具志が「どうしても話したいことがあります」と前置きし「修道院のシスターたちの間でいつも話題になっていたことがあります。毎朝ミサに与

るために暑い日も寒い日もコザから高原への急な坂道を母娘で教会に歩いて通っていたことです。とても信仰心の厚い方だと思います」と話されました。

シスターのお話のあと娘さん夫婦より「母は訪問介護を受け穏やかに過ごしています。今日はありがとうございます」と近況報告とお礼の言葉がありました。

最後にみんなで聖家族音頭を歌い神父様の祝福をいただき、長寿にあやかり心も体も満たされてUさん宅を後にしました。コザ教会の信徒として一堂に会し喜びを分かち合えたことをうれしく思い、この機会を下さった主とUさんに感謝しました。」

以上が当時の様子です。娘さんによると彼女はアシジのフランシスコ会の第三会員で、前もって準備していた茶色の修道服を着ての旅立ちであつた。そして何よりも大切にしていたものが「教会」と「信仰」であつたとのこと。今ごろ彼女は与えられた命を大切に過ごし、与え主に返して「苦勞様」と主にねぎらわれ、マリア様のもとで、既に旅立った方々と共に私たち後輩のことを主にとりなしておられることでしょう。後に続く私たちも彼女に倣いたいものです。

2021年2月拡大司祭・助祭会議議事録

開催日時：2021年2月9日(火) 10:00～11:30 開催場所：教区センター

※会議に先立ち、聖堂でアジット神父による聖時間と聖体賛美式に与り、会議の準備とした。

1. 報告及び連絡事項：司会・デニス神父。

- ・前回(1月会議)の議事録の確認－新田。
- ・1月26日(火)に開催された教区顧問団と責任役員会の合同会議について、ウェイン司教から報告が行われた。難民・移住・移動者の苦境について、教区としてどう取組んでいくかが議題として扱われたこと等が報告され、個別案件については後で報告がある。教区長は、司祭評議会への提案事項について顧問会に諮問し、その提案の中で宗教法人法に関連する事柄については責任役員会がそれを審議、承認する等の役割分担があることが報告された。
- ・2月15日～19日にかけて行われる定例司教総会は Zoom を使った開催となり、東京へ行くことはないが、会議の間は面会や外出はできないことが報告された。
- ・2月22日～25日にかけて与那原で行われるカプチン会の日本地区総会は、コロナ禍でニューヨークやインドの管区長が出席できないため、今回、管区長代理でウェイン司教が議長として出席されることが報告され、カプチン会のためお祈り下さるよう要請があった。
- ・ITセンター、保良教会の改修工事について事務局長の津波古さんから報告が行われた。ITセンターとして活用されていた建物は、ONDのシスターだけで住むには過大で、安全の面からも不安がある。そのため、シスターたちは保良教会に移っていただいて、ITセンターはダルクに貸与、活用してもらうことが責任役員会に提案され、了承された。3月には保良教会にシスター達が住めるよう、フェンスの設置や内装の工事が行われていることが報告された。
- ・3教区合同黙想会について、ウェイン司教から報告があった。他教区との話し合いはまだ行われていないが、ホスト教区である那覇教区としては今年も延期する方向が望ましいと考えていることが報告され、他教区の同意があれば、今回も合同黙想会は延期の上、教区内の司祭・助祭だけの黙想会を計画したい旨提案、了承された。
- ・10月18日～21日にかけて予定されている長崎教会管区の司祭集会について、コロナ禍でまだはっきりと開催できる云々は打ち出せていないが、事務局長会議では開催を前提に準備を進めていることが報告され、日程に合わせて準備はしておくよう要請があった。
- ・その他
- ・教区事務局より、会計年度は4月1日から翌年3月31日となっているが、教区への送金等は余裕を持って3月15日までに行うこと、それ以降になると事務手続きが煩雑になることなどが説明され、協力が要請された。宣教地召命促進の日の献金等、事務局に送るべき献金や司祭生活扶助費の分担金も早めに送金されるよう要請が行われた。
- ・「灰の水曜日」の典礼についてウェイン司教から報告が行われた。回心の呼びかけは司祭が祭壇上から1回のみ行い、引き続き会衆は間隔を保って司祭の前に進み、頭に灰を振掛けてもらう。額への十字架の印は行わない。また、聖週間の典礼についてはコロナの様子を見ながら判断していくことも合わせて報告された。

2. 審議事項

- ・緊急事態宣言中の取組みについて、ウェイン司教より司祭たちの協力に感謝が述べられた。特に宮古におけるコロナ感染者の増加に、公開ミサの中止を含め、素早い対応を取ってくださった藤澤神父にリモート画面を通して感謝が述べられた。公文で通達したように、コロナへの対応を徹底して、感染しない、させないためにとるべき対策を徹底するよう改めて要請が行われた。現在、教区では宮古島平良教会と南静園、愛楽園、伊江島、大里教会が公開ミサを中止している。
- ・教皇フランシスコによって定められた「ヨゼフ年」について、泡瀬のブイ神父から提案があり、活発な討議が行われた。昨年12月8日に始まり、今年12月8日までの1年間、聖ヨゼフに捧げる年と定められているので、教区としても様々な取組みができるのではないかと提案があった。具体的には3月19日の聖ヨゼフの祭日にちなんで、3月の司祭会議を、聖ヨゼフを保護者にいただく石川教会で開催すること、会議の前に共同司式してミサを行い、那覇教区におけるヨゼフ年の幕開けとすることが決まった。コロナ禍もあり、ミサは司祭会議に参加する司祭たちとスタッフのみで執り行う。
- ・宮古島の ITセンターについては、ダルクが依存症回復施設として使用を希望しており、聖堂と司祭館以外の部分を利用していただく方向で調整している。
- ・マーシーさんから「カリタス那覇」の活動報告が行われた。「南の光明」2月号に詳細を記したので参考にして欲しい。各小教区を回って様々なニーズや支援の掘り起こしと、文化センターを拠点とした取組みにも力を入れていきたい旨報告があった。

- ・ウェイン司教から、教区内に暮らす難民・移住・移動者のケアについて、ベトナム人研修生や困難に直面している在沖外国人のケアのために、例えば泡瀬の修道院や浦添の修道院1階の青少年センターを利用した取組みができないか、特に滞在者数の一番多いベトナム人のためにベトナム出身の司祭たちが自らの課題として主体的に検討するよう要請がなされた。
- ・コロナ禍の状況が続く中、2021年度の人事異動は基本的に行わないことがウェイン司教から報告された。
- ・3月5日、四旬節第2金曜日に設けられた、「性虐待被害者のための祈りと償いの日」のミサについて、典礼文が配られ、ウェイン司教から各小教区でその意向に沿ってミサが捧げられるよう要請が行われた。また、2月11日の教区の日と典礼文も合わせて配布された。
- ・3月25日、「お告げの祭日」に定められている「いのちを守る日」のミサについても、ウェイン司教から要請が行われた。「ぬちどう宝」の観点から「すべてのいのちの尊さ」について説明がなされるならば、その意味合いが伝わりやすい等の提言がなされた。
- ・石川や浦添にある、教区が使っていない土地について、事務局長の津波古さんから説明された。使用していない土地については売却も含め検討していくことが提案され、了承された。またウェイン司教からは、教区の有する土地や建物など基本財産についてのあらゆる事柄は、法的な手続きが必要なため、先ず事務局長を通じて必ず教区と相談するよう要請された。
- ・その他
- ・1月24日(日)、具志川教会で行われたサントニーニョ祭について、主任のサニー神父から報告と感謝が述べられた。
- ・ヨアキム神父からコロナ禍の影響で今年のサマーキャンプの日程も決められないでいることが報告された。また、来年(2022年)全国の青年大会を沖縄で開催したい希望を持っているが、コロナ禍が続くようであれば、ズーム開催などを提案していきたいとの報告があった。
- ・マイケル神父より、石垣教会でもサントニーニョのノベナを行ったことが報告され、10月に司教訪問をお願いしたい旨要請が行われた。
- ・教区の引退した先輩司祭たちについて、司教から報告があった。認知症や物忘れといった症状が見られる先輩司祭たちと接する時は、心安らかに接して欲しい。同じ話を何度も繰り返すが、聞いてあげるといった対応が求められる。また、単に可哀想だからということではなく、先輩司祭たちにとって、いま何が必要なことなのかをよく考えて接するよう要望があった。
- ・時間の都合で今回できなかった拡大司祭助祭会議、研修会などについての話し合いは次回以降に持ち越しとなった。
- ・次回、司祭・助祭拡大会議は、2021年3月2日(火)午前9時半から石川教会にて開催される。

2021年2月17日

記録: 新田 選

承認: ウェイン・フランシス・パーント司教

着任紹介

リカルド・ブガス神父



那覇教区の皆様、初めまして
フィリピン宣教会のリカルド・ブガス神父です。二〇二〇年五月十五日に那覇教区へ移動が決まりました(コロナ禍のため、着任が大分おくれました)。前任地は広島教区でした。私は一九六七年九月十四日、フィリピンで生まれました。フィリピンのタガイタイ市の神学校を卒業し、二〇〇〇年四月十四日に司祭に叙階されました。フィリピン宣教会に所属しており、これまで二十一年間宣教活動に従事してきました。叙階後はマニラの大司教区を皮切りに、パプアニューギニア、ニュージランドで司牧し、二〇一二年五月十五日から広島教区で働いてきました。昨年那覇教区に異動となり、読谷教会を担当いたします。どうぞよろしくお願い致します。

那覇教区子どもと女性の権利を擁護するデスク

教皇様の教令により、2021年 月までに各教区に「子どもと女性の権利を擁護するデスク」を設置することになりました。那覇教区では以前から時間をかけて準備を進め、このデスクを設置しました。

相談窓口 ☎098-863-2020
(火・水・木 13:00~17:00)



NPO 法人ぶどう園の会

訪問看護ステーション クララ

TEL&FAX:098-937-5001

住所 沖縄市泡瀬2丁目37-15

・基本受付 月曜日~金曜日(申込、相談など)

・営業時間 8:30~17:30

・営業日 24時間365日(緊急対応含む)



映画「夜明け前のうた」

全国上映決まる

一九〇〇年、「精神病患者監護法」が制定されました。「精神病患者」を治安維持を目的として自宅に閉じ込め、あるいは「監置小屋」を作つて強制収容するものです。「我が邦十何万の精神病患者は実にこの病を受けたるの不幸のほか、この邦に生まれたるの不幸を重ねるものと言ふべし」と精神病患者の実態報告書（一九一八年）にあるように、食事も排泄も何もかもが「座敷牢」や「監置小屋」に限定され、人としての生きる権利や尊厳も奪われました。

その過酷さゆえに一九五〇年に「精神病患者監護法」は廃止されました。しかし、沖縄では一九七二年の日本復帰まで制度が継続され沖縄に生まれたことが三重の不幸ではないかとも言われました。閉じ込められていた人の中には、救出されて保護され、自活もできるほど回復した方もおられました。その小屋の中で死亡した人も多くあったようです。もちろん閉じ込められた本人には何らの落ち度もなく、家族の責任でもありません。

適切な医療や福祉に繋がれば病状が良くなる可能性があるのに、国が法律で「私宅監置」を強制したのです。その結果、病状に対する誤解や無理解から偏見が生まれ、本人や家

族に苦しみや痛みを押し付けていながら、今では地域からもその存在が忘れられ消されてしまっています。このことについて世に問う映画

「夜明け前のうた（消された沖縄の障害者）」が作成されました。「私宅監置」の実態を知り、今後を考えるために鑑賞いただければと願っています。

※三月二十日（土）から

ケイズシネマ（東京都新宿区）

四月三日（土）から

桜坂劇場（那覇市）

その後全国各地で上映

※写真展「闇から光へ」も開催

三月三十日（火）～四月四日（日）

那覇市ぶんかテンプス館にて

問い合わせ「夜明け前のうた」

制作・上映実行委員会

（山田圭吾 〇九〇・一三四四・五七〇二）

計報

◆開南教会

フランススコサレジオ 宮良 徹 様

二〇二〇年十二月二十九日帰天 享年八十六歳

◆普天間教会

ガラローザロディナ・エンリコ 様

二〇二二年一月七日帰天 享年九十三歳

◆安里教会

エリザベト 玉寄 ツル子 様

二〇二二年一月十三日帰天 享年九十一歳

◆読谷教会

バンガ バンビエラ 様

二〇二二年一月十五日帰天 享年九十一歳

◆与那原教会

エリザベト 比嘉 基子 様

二〇二二年一月二十三日帰天 享年八十一歳

洗礼と堅信おめでとう
ございます！

真栄原教会

二〇二二年二月二十一日

洗礼：ヨハネ 長久保 剛

堅信：ヤコブ 森 廣樹

「聖ヨセフ年」

教皇フランシスコは二〇二〇年十二月八日から二〇二一年十二月八日を「ヨセフ年」とすることを宣言しました。

二月十六日付けで日本カトリック司教協議会定例司教総会で認可された、「聖ヨセフへの祈り」も発表されています。

「カトリック教会の保護者」聖ヨセフに祈りましょう。聖ヨセフの祭日は三月十九日（金）です。

聖ヨセフは「執り成しの人、苦難の時に支え、導いてくれる人」だと教皇も記しています。

イエスの養父としての聖ヨセフの優しさやあふれる愛、神からの召命への従順さや勇氣に学んでいきましょう。



～ご遺族の心をもって奉仕する～

そうてんしゃ

葬典社

*創業30数余年・・・。

*皆様に支えられ「感謝」とともに人生を閉じるためのお手伝いをさせていただいております。

*ご質問、ご相談、24時間、いつでもお電話下さい。

「ゆうなの会」会員募集中です。

ひが たかしげ
(実務担当) 比嘉 高茂

24時間
受付

てんごく

☎098-853-1059



葬祭の

「やすらい企画」



私たちは故人とご遺族の意向を最優先に考えます。何でもご相談下さい。

那覇市首里鳥掘町4-57-3

TEL&FAX:098-885-8205

http://w1.nirai.ne.jp/yasurai

E-mail:yasurai@nirai.ne.jp

24時間
受付